



福山大学

FUKUYAMA UNIVERSITY

学 報

2013.12.10 Vol. **138**

三蔵五訓

真理を探究し、道理を实践する。
豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる。
生命を尊重し、自然を畏敬する。
個性を伸展し、紐帯性を培う。
未来を志向し、可能性に挑む。



工学部新棟が竣工



ACCREDITED
2007. 4~2014. 3

トピックス	1
第39回 三蔵祭	4
拡がる教育	6
地域連携活動	7
研究の今	10
インフォメーション	11
留学等体験記	12
学友会短信	13
訃報	14
後援会情報	15
入試広報室から	15



工学部新棟が竣工！

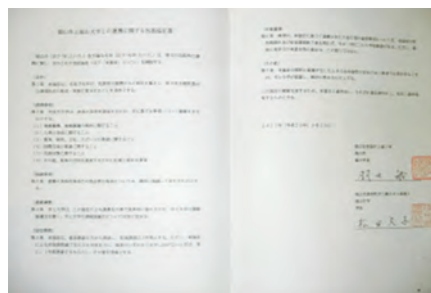
工学部では、「人間力の獲得とものづくり技術の修得」を教育の柱と考えています。この「人間力」というのは、「考える力、行動する力、判断する力、改善する力、コミュニケーション能力」の5つの力であると考えています。人間力は、学生諸君が卒業して将来の予測が困難な時代を生き抜くために、もっとも必要な力です。学生諸君は、将来直面する様々な問題を解決していくために、自ら学ぼうとする姿勢を早くから身につけておく必要があります。さらに工学部では、「今までの与える教育から、学生諸君の資質や能力に応じた主体的な学びへの転換」を進めていきます。この主体的な学び、つまり「アクティブ・ラーニング」を推進しており、具体的には、初年次教育として「みらい工学教育プロジェクト」という名称のプロジェクト型学習(PBL: Project-Based-Learning)を実践しています。また、「ひと・まち・くらしプロジェクト」という名称の、地域の活性化や地域貢献に取り組むPBLも実践しています。

また、これらの新しい教育をさらに充実させ推進していく場として、新しいコンセプトのもとで工学部新棟を計画し、9月20日(金)に建物が竣工しました。新棟は3階建てで、延べ床面積は7,833㎡、建築面積は3,364㎡です。内部は、学科横断プロジェクトエリア、各学科の研究・実験エリア、講義室・パソコン室等、そして工学部が平成26年度より新たにに取り組む予定の社会安全工学研究・実験エリアから成ります。また、特色ある設備として、太陽光発電設備(パネル枚数154枚・最大発電量37.73kW)、風力発電設備(風車3機・最大発電量12kW)、地中熱利用空調設備(地中と地上の温度差を利用して得られる熱エネルギーを空調に利用するシステム)、全室LED照明(調光センサー付)等の省エネ設備も備えています。新棟のコンセプトは、「見通しのよい空間」です。建物内部では壁による“しきり”をできるだけ少なくして、学生諸君と教員が一体感を感じられるような親しみやすい空間となっています。学生諸君にはこの新しい学舎で、将来必ず役に立つ様々な力を養ってもらいたいと思っています。また、市民との交流の場としても活用していきたいと思っています。

工学部長 鶴崎 展



福山市との包括協定締結について



9月30日(月)に、福山市役所において「福山市と福山大学との連携に関する包括協定書」の調印式が行われ、福山市からは羽田皓市長、福山大学からは松田文子学長が出席して調印書に署名しました。この包括協定は、地域社会の形成・発展に寄与することを目的とし、地域振興、人材育成、教育・研究・文化・スポーツの推進、国際交流、災害対策等の多様な分野で市と大学が連携することを定めたものです。福山市にとっても福山大学にとってもこうした包括協定の締結は初めてであり、これにより自治体と大学が連携を進めるために必要な枠組みができたことになります。調印式終了後、羽田皓市長より、「福山大学は備後地域で唯一の総合大学として様々なシーズを有している。これを連携により活かしていくことは福山市の方向性と一致しており、包括協定が地域の活性化に繋がることを期待している。」との挨拶がありました。続いて、松田文子学長が、「ここに至る関係者の努力に感謝する。教育はキャンパス内だけで終わるものではなく、緊密な地域との協力により学生は成長する。地方がすたれては日本は成り立たず、大学は知(地)の拠点にならねばならない。9月20日(金)に竣工した工学部新棟は、開放的な空間で教員・学生・地域の交流が進むことを狙っている。経済学部では、来年度に備後経済コースを新設することになっており、産学官連携がさらに進むと思う。」と本学の方向性を踏まえて包括協定への期待感を述べました。包括協定の締結は、地域に根ざした総合大学として、福山市と連携しながら本学がさらに地域に貢献し、飛躍しなければならないとの責任とその予感を感じさせる瞬間でした。

副学長 富士 彰夫

「科学研究費助成事業・審査委員賞」を受賞！

この度、(独)日本学術振興会(JSPS)から平成25年度科学研究費助成事業・審査委員表彰を受けました。科学研究費審査委員に表彰制度があることは知っていましたが、私自身が表彰を受けるとは全く思ってもみないことで、やや当惑しています。ということで、せっかくの機会ですので本件について簡単に紹介させていただきます。まず、科学研究費についておさ



いしておきます。日本学術振興会のホームページによると、科学研究費とは「(中略)基礎から応用までのあらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピア・レビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものです。」と記載されています。審査については、「本会では、学術研究の振興を目的とした科研費の業務を行っており、適正・公平な配分審査に努めているところです。配分審査は、専門的見地から第1段審査(書面審査)と第2段審査(合議審査)の2段階で行われますが、審査の質を高めていくことが大変重要となっております。このため、学術システム研究センターにおいては、審査終了後、審査の検証を行い、その結果を翌年度の審査委員の選考に適切に反映しております。さらに、検証結果に基づき、第2段審査(合議審査)に有意義な審査意見を付していただいた第1段審査(書面審査)委員を選考し表彰することとしており、今年度は約5,300名の第1段審査(書面審査)委員の中から124名を選考しました。なお、「第2段審査(合議審査)」に有意義な審査意見は、次年度の第1段審査(書面審査)の手引きに反映し、第1段審査(書面審査)委員が審査を行う際に活用できるようにしております。研究者として競争的資金の審査に関わることが、各研究機関内においても積極的に評価されるようになることは、ピア・レビューの質を高め、我が国の研究費制度全体を向上させることにつながるものと考えます。」と書かれています。科学研究費助成事業・審査委員表彰を受けても大学に間接経費が入ったり、本学の科研費採択率が上がったわけではありませんが、「所属機関は間接的なメリットを考慮して積極的に評価して下さい。」という意図が窺われます。今回の表彰に際しては、松田文子学長をはじめ、関係各方面からご評価をいただき、心から感謝するとともに厚く御礼申し上げます。



生物工学科 教授 岩本 博行

「四季の陽だまり」がオープン！



11月1日(金)、工学部新棟そばに建設中だった中庭がついに完成し、そのオープニングセレモニーが開催されました。この中庭の名称は『四季の陽だまり』です(学長が名付け親です)。この四季の陽だまりは、建築・建設学科の大学院生と教員で検討したそうで、「学生や教職員が気軽に利用できる」ことや「工学に対する固いイメージを和らげるようなデザイン」をコンセプトとし、「重なり合うウッドデッキ」、「tentのような軽やかな日よけ」、「石組みの小川」等のモチーフを提案、将来的には小川に蜚が飛び交うような「ビオトープ」となればとのことです。なお、新棟2号館前の中庭も同時オープンしました。卒業研究や授業の合間にちょっと休憩といった感じで、おそらくこれから学生の憩いの場となるでしょう！皆さんも、是非歩いてみてはいかがでしょうか？

心理学科学生が県知事表彰！



11月2日(土)、広島県民文化センターで開催された青少年育成県民運動推進大会において、人間文化学部心理学科4年生の三吉大暉君が、広島県知事表彰を受けました。三吉君は、福山西警察署の少年補導協助手員として、学校担当制による校内巡視や街頭補導等へ積極的に参加し、また、「少年サポートルームふくやま」における学習支援や非行少年等の立ち直り支援に取り組むなど、他の青少年の模範となっているという理由で、県内でただ1人「模範青少年」として表彰されました。

三吉君は、広島県立府中東高等学校3年生の時、心理学科のオープンキャンパスに参加して、犯罪心理学を学んで警察官になりたいと思いました。それは、福山大学の心理学科には科学捜査研究所に勤務していた教員がいて、中国四国地方で唯一、犯罪心理学を本格的に学べる大学だったからです。三吉君は、オープンキャンパスの時に紹介された犯罪心理学研究室が主催する「高校生を指導者とした地域安全マップセミナー」にも参加しました。入学後、すぐに地域安全マップの指導員としてボランティア活動に参加し、3年生からは希望する犯罪心理学研究室に所属して、少年補導協助手員を務めたほか、「少年サポートルームふくやま」で学習支援や非行少年等の立ち直り支援に携わってきました。「少年サポートルームふくやま」は、今年の9月2日(月)から商業施設R i M - f (リム・ふくやま)の中に設置されていますが、警察・福山市・福山市教育委員会のスタッフが常駐する広島県初の新しい施設として注目を集めています。その中で、少年と年齢の近い大学生が学習支援や非行少年等の立ち直り支援に取り組むことも大きな特徴となっています。「少年サポートルームふくやま」には、心理学科から約10名の学生が参加していますが、三吉君は最上級生のリーダー的存在として活動し、広島県警の少年育成官からは、子どもに対する接し方が非常にうまく、コミュニケーション能力に長けているとの評価もいただいています。

また、三吉君は広島県警察職員採用試験に見事合格し、来春からは広島県警察官として採用が内定しています。福山大学心理学科の犯罪心理学研究室で学んだ知識と、この度の県知事表彰を励みとして、後輩が目標とするような模範的な警察官となることが期待されています。

心理学科 教授 平 伸二

第39回 三蔵祭

三蔵祭を終えて



今年で39回目を迎えた三蔵祭は、「新進気鋭」というテーマを掲げ、三蔵祭運営委員会一同は新しいことに取り組んで、より良い三蔵祭にし、皆様に楽しんでいただけるよう日々努力しました。

今年の大学祭ではこの三蔵祭に携わって下さる皆様、そしてご来場していただく方々に、新しいことに取り組む挑戦する気持ちを生まれさせる場を作りたいと思い、また私たちも三蔵祭を通して少しでも成長していきたいと思い、精一杯活動してきました。各学部・学科の展示、多数のサークルや研究室による模擬店、様々なイベントなど多くの方々のご協力のもと、私たちはもちろん、皆様の心に何らかの変化を生じさせるような三蔵祭になったのではないかと思います。今年はいにく雨の中での三蔵祭となりましたが、それでも学内外の多くの方々にご来場していただきました。三蔵祭運営委員会の皆で一つにまとまり、日々1日1日を大事にして取り組んだ結果、ご来場の皆様の楽しそうな様子を拝見することができ、三蔵祭運営委員会一同も、第39回三蔵祭が無事成功したことを大変うれしく思っています。

今回の三蔵祭を通じて、皆で協力し、1つの目標に向かい努力していくことの素晴らしさを改めて実感する事ができました。学内外のご協力してくださった皆様、この三蔵祭に携わってくださった皆様、そしてご来場いただいた方々に心よりお礼申し上げます。

第39回三蔵祭運営委員会 委員長 生命工学部 海洋生物科学科 3年 野並 佑弥

経済学部 わたしたちの身近な経済について考えてみよう！



経済学部では、各ゼミや学科ごとに経済に関する問題や各学科の紹介などをパネルにして展示しました。私たち足立ゼミでは、2班に別れて「2020年東京オリンピック」と「アベノミクスとTPP」について調べました。2020年に東京でオリンピックが開催されることによる経済効果やオリンピックに向けての設備や環境をどう整えていくのか、アベノミクスとはそもそもどういう政策なのか、等々調べていく中で知識も深まってきました。さらに、今年はインドネシアのバリ島への海外研修旅行に参加したので、バリ島研修旅行についてもパネルを作成しました。私にとって初の海外旅行ということもあり、その国での文化や風習、生活や暮らし方、料理、空気といったすべてのものが新鮮でとても良い経験になりました。また、展示パネルを見に来てくださった方々にはオリンピック招致のピンバッチやメモ帳などをお配りしました。

大学3年生にして、初めてこんなにも三蔵祭に携わることができました。来年の三蔵祭では、今年の経験を活かしてさらに良い企画を、さらに良い三蔵祭にしていけたらいいと思いました。

国際経済学科 3年 小村 良

人間文化学部 「心理学式お化け屋敷～あなたはその恐怖に耐えられるか!?～」で恐怖の心理効果を演出！



心理学科では、「心理学式お化け屋敷～あなたはその恐怖に耐えられるか!?～」をテーマに、お化け屋敷を企画しました。心理学の知識を生かし、犯罪心理学研究室の平伸二先生の監修のもと、来ていただいた方々に恐怖を感じ、楽しんでいただけるように心掛けました。また、お化け屋敷の外には、心理学科のゼミでの研究結果をパネルでも展示しました。

今回のイベントは、時間のない中、平ゼミで行ったお化け屋敷からヒントをもらい企画し、運営までを2年生で行いました。今回はお化け屋敷だけでなく、三蔵祭も楽しんでいただけたかったため、「お・も・て・な・し、おもてなし」の心で行いました。その内容として、十字架を持って出てくると引換券を配り、その引換券を持って学内にいるヴァンパイアを見つけると、素敵なプレゼントを渡しました。お化け屋敷もみんなで張り切り、2日間で469名ものお客さんに来ていただきました。お化け屋敷から出てきた方々は、「楽しかった」、「怖かった」、「完成度が高かった」など、たくさんの好評をいただきました。2年生全員がそれぞれの役割を果たし、無事終わることができました。

今回の企画で、多くの方に恐怖を体験していただき、心理学科2年生一同大変うれしく思います。また、私たちもみんなで楽しく運営ができ、大変有意義な企画になったと思います。

心理学科 2年 植田 善博、松永 大輝

工学部 三蔵祭にむけて



る際に、「この学科おもしろいね!」と会話されたときは本当にうれしく、参加してよかったなと心から思いました。

反省としては、会場の作りに少し問題があったなと感じたこと等、改善点もいくつか見つかりました。来年の三蔵祭でも、是非ご来場ください。

電子・ロボット工学科 4年 峯松 大輔

生命工学部 はじめての三蔵祭



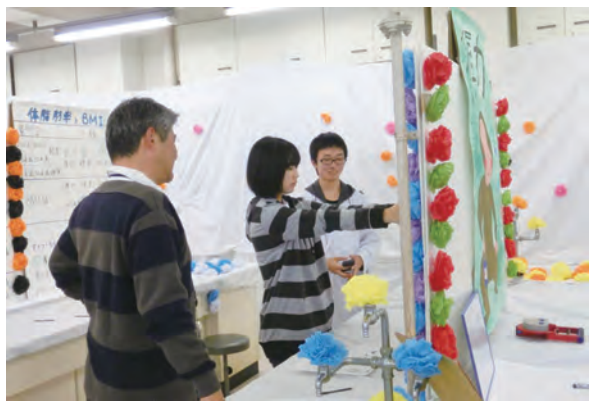
海洋生物科学科では、「アクアフェスタ2013」をテーマに水生生物の体験コーナーと海洋生物科学科の教育・研究内容の紹介を中心に、展示を行いました。体験コーナーでは、私たち1年生が中心となり、4つのテーマ(金魚すくい・さわって当てよう・マリンクイズ・亀レース)を企画し、私は金魚すくいを担当しました。金魚すくいに関しては、以前にも自身で体験することはありましたが、運営側はグループ全員がはじめての体験でした。準備期間では、メンバーの意見が合わず、うまくいくかが心配でした。しかし、三蔵祭が近づくにつれ、皆がまとまってくのがわかり、その団結力のお陰で三蔵祭の前には何とか準備が整いました。

当日は台風の接近のため悪天候でしたが、それでもたくさんのお客さんに来場していただきました。老若男女、皆さん楽しんでいただけたようで、会場は笑顔で一杯でした。見ているこちらも笑顔になりました。

さらに、海洋生物科学科は、本年度で設立15周年という節目の年を迎えました。来年の三蔵祭では、また一回り大きくなった海洋生物科学科をアピールできるよう、これからも頑張りたいと思います。来年も、是非会場に足を運んでいただけるよう、よろしくお願いいたします。

海洋生物科学科 1年 戸田 優

薬学部 化学班・薬局班・薬学部運営班



薬学部では、10月19日(土)～20日(日)に10号館にて化学班、薬局班、薬学部運営班の3つの班が催し物を行いました。また、音楽班は18日(金)にサブステージで活動を行いました。化学班では、「作って!遊んで!食べて!化学を楽しもう!」をテーマに、液体窒素を使った実験やジアゾカップリング反応を利用したハンカチの染色などを行い、身近にある様々な化学反応を体験してもらいました。薬局班では、毎年好評をいただいているハンドクリーム、カタコリーナ(肩こり用液剤)、消臭剤の作成や調剤用分包機による入浴剤の分包体験が好評でした。また、風疹についての研究発表もありました。薬学部運営班では、恒例となっている「体力測定」「紫雲膏の調製」に加え、肺チェッカーでの肺年齢測定や骨密度計を用いての骨密度測定を行いました。さらに、「骨粗鬆症」「COPD」についても研究発表しました。

三蔵祭当日は悪天候にもかかわらず、予想以上の方々に来ていただきました。また、来られた方々が楽しんでおられる様子も見られて、とても嬉しく思いました。最後に、特に薬学部運営班の活動にあたり班に入っていない人や先輩など様々な人達に手伝っていただいたおかげで、無事に三蔵祭を終えることができました。ありがとうございました。

薬学部 3年 久保 沙織

第12回 ロボットコンテスト

今年で、工学部主催の大学祭ロボットコンテストは12回目となります。9月に工学部新棟が完成し、コンテストは工学部新棟完成記念行事として工学部新棟で実施しました。また、今回は中学校3校、高等学校2校の合計5校11チームの参加があり、優勝は英数学館高等学校技術部チーム「DELTA3」でした。

機械システム工学科 講師 小林 正明



四国EVラリー2013でクラス優勝！



8月に愛媛県松山市で開催された「四国EVラリー2013」は、EV(電気自動車)で公道上の各チェックポイントにたどり着くことで獲得ポイントを競います。搭載したバッテリー等でクラス分けされており、福山大学工学部は「みらい工学教育プロジェクト(EV学生製作プロジェクト)」でコンバートしたEVで参戦し、クラス優勝を果たすことができました。

機械システム工学科 助手 山下 稔

第8回 高校生CMコンテスト



恒例の「高校生CMコンテスト」を開催しました。3部門計500点以上、本年も多数の応募が集まりました。厳正な審査の結果、集まった力作から各賞が選ばれました(受賞作品の詳細は、本学科ウェブサイトをご覧ください)。10月20日(日)の学生運営による表彰式には、遠方からの参加や多数のビデオレター参加もあり、制作にける高校生たちの『熱』を感じることができました。

ウェブサイト <http://www.fukuyama-media.jp/cm/>
 メディア情報文化学科 講師 安田 暁

第11回 広島県高校生英語スピーチコンテスト

三蔵祭初日の10月19日(土)に、「第11回 広島県高校生英語スピーチコンテスト」が開催されました。今年は広島県下の11高校から計16名が参加し、熱のこもったスピーチが繰り広げられました。本年のテーマは、「私が世界に伝えたいこと」でした。厳正な審査の結果、広島県立三次高等学校2年生の山田奈保さんが、見事大賞に輝きました。おめでとうございます。



国際センター国際交流部運営委員会 委員長 岩本 博行

恒例の「じばさんフェア2013」に出展！

毎年恒例となっている「じばさんフェア2013～環境にやさしいエコな取り組み～」(主催：備後地域地場産業振興センター、後援：福山大学・福山平成大学)が、福山市中心部の緑町公園に隣接するローズアリーナ及び屋外プロムナードを会場として、10月26日(土)～27日(日)の2日間にわたって開催されました。福山大学からは心理学科、メディア情報文化学科、スマートシステム学科(平成26年度学科名称変更届出済)、建築学科(平成26年度学科名称変更届出済)、構造・材料開発研究センター、情報工学科、機械システム工学科、生命栄養科学科、海洋生物科学科、グリーンサイエンス研究センター、薬学部が全11ブースに出展しました。初日のオープニングセレモニーでは、松田文子学長がテープカットに参加し、本学伝統の三蔵太鼓の演奏が会場内に響き渡りました。2日間で12,000人の来場者を迎える中で、各ブースでは教員や学生が、それぞれ趣向を凝らした参加型イベントや展示を行いました。地域と一体になって活動する本学の姿を、多くの方々に紹介することができました。

社会連携センター 産学連携部長 水上 優



お薬相談室と体脂肪測定も大人気



骨密度測定と栄養指導に長蛇の列



瀬戸内海の「お魚の子供」に子供達も興味津々



いろいろなロボットを動かしてみよう！

第3回 府中学びフェスタに初参加！

府中市において、「第3回府中学びフェスタ」が、10月26日(土)～27日(日)の2日間にわたって開催されました。このフェスタでは「学び」をキーワードとして、市内外の学校の文化系活動の発表や体力テスト体験などが行われました。今回は、初めて本学が協力校として参加し、「学びのキッカケ理科体験コーナー」の他、「食育に関するポスター」の展示などを実施しました。理科体験コーナーでは、10名の薬学部学生ボランティア及び教員2名が3つのテーマで来客者に対応しました。あいにくの曇り空でしたが、行列ができるほどのにぎわいでした。また、経済学部相原研究室の協力による「雑巾がけレース」やダンス部による「チアダンス」も行われ、盛り上がっていました。



なお、10月31日付けの学長室ブログ(http://blog.fuext.fukuyama-u.ac.jp/2013/10/2013_31.html)に詳しく紹介されていますので、是非ご覧ください。

薬学部 講師 土谷 大樹

福山大学薬学部と福山市立東村小学校の交流 ―理科実験教室―

9月10日(火)に、福山市立東村小学校の児童3年生と4年生合計16名が薬学部の実習室で理科実験を行いました。この理科実験教室には、私に加えて町支成教授、西山卓志助手、門田麻由子助手及び薬理研究室5名の4年生学生が、東村小学校からは西本真由美校長と3・4年生担任の岡村千恵教諭が参加しました。

理科実験教室では、まずドライアイスを作ってもらいました。児童たちはドライアイスの温度を測定したり、息を吹きかけて白い煙を発生させたりして、ドライアイスが冷たいことや固体から直接気体になることを体験しました。続いて、液体窒素でバナナやジャガイモを凍らせると釘が打てるほど硬くなることや花を凍らせると花びらが碎けることを体験しました。また、風船を取り付けた試験管に液体窒素を入れると風船が膨らんで破裂することも体験しました。およそ2時間の理科実験教室は、「すごい!」「どうして、どうして?」など、児童の歓声であふれ楽しいものになりました。



薬学部 教授 田村 豊

2013年度 福山大学公開講座終了

福山大学公開講座を、福山大学と三原市中央公民館中講堂の2会場で9月から11月にかけて「健康で豊かな生活を求めて」というテーマで実施しました。人間が生涯にわたって健康で生き生きと生活するために、日々どのような暮らし方をすることが大切なのかをスポーツ、こころと体の健康、テクノロジー、食品、医療の面からお話をしました。各回のテーマ、講師は次のとおりです。

回	福 山	三 原	講 座 名	講 師
1	9/28	9/25	スポーツの力～東京2020オリンピック・パラリンピック招致連携協定大学として～	経済学部 相原正道 准教授
2	10/5	10/2	こころと体の健康～ストレスとの上手な付き合い方～	人間文化学部 日下部典子 准教授
3	10/12	10/16	安心・安全、そして、豊かな暮らしを支えるためのスマートテクノロジー	工学部 香川直己 教授
4	10/26	10/23	食品の機能性	生命工学部 山本英二 教授
5	11/2	10/30	超高齢社会の活力となる健康寿命の延伸	薬学部 杉原成美 教授



また、閉講式において5回中4回以上の出席者に、修了証書を授与しました。会場ごとの延べ出席者数及び修了者数は、福山会場では延べ出席者数612人、修了者数98人、三原会場では延べ出席者数264人、修了者数47人となりました。来年度も、地域の方々への情報発信の場として貢献していきたいと思っています。

社会連携センター 知財・地域連携部長 三輪 泰彦

「備後経済論」について

備後地方には、多くのオンリーワン・ナンバーワン企業があります。中小企業から大企業まで様々な業種がありものづくりの一大集積地です。

経済学部は、地域とのかかわりを深めることから毎年後期の授業で「備後経済論」を開講しています。この講座は、備後地方の経営者や金融機関など多くの方々からご支援を受けながら実施しており、すでに10年が経ちました。講義は、地元企業の経営者を講師に招き、経営理念や企業の立ち上げ話、若い世代へのメッセージなどを語っていただくことから、毎回約200人の学生が受講する人気授業となっています。

講義では、企業経営の重要性や時代の先を読む、多くの失敗から学ぶ、大きな目標を立てるなど一般の授業では学ぶことのできない貴重な話を聞くことができます。このため、学生たちにとっては、地元経済や企業経営に理解を深めるだけでなく、将来の生き方にも大変役立つ授業となっています。また、今年9月には前年度の講義内容をまとめた「平成24年度講義録」を刊行しました。講師にお願いした経営者をはじめ、近隣の高等学校などへ配布して高校生の進路指導や関心のある人たちに大変喜ばれています。

受講の学生は、毎回講義の概要と感想をレポートで提出します。地元には多くの店舗を持つスーパーの社長さんと工作機械を扱う社長さんの話を聞いた学生の感想を紹介します。

①「成功の反対は何ですか？」と聞かれました。「失敗」に決まっていると思いました。社会では失敗は「成功」のきっかけになる。一番悪いのは、何もしないことと話された。今の自分はこれでいいのかと思いました。また、会社が発展するには、ふつう特徴を伸ばすことが大切というが、社長はそうじゃない、売れ筋が一番怖いと話されました。私は売れるものを売るのが良いかと思いましたが、よその会社が参入するからいつも引き際を見ている。成功の反対は失敗ではない、何もしないこと。会社の発展は、売れ筋が一番怖く、いつも引き時を見ている、つまり世の中で成功するには、世の逆を行くことが大切と話されました。

②僕は、社長さんの話を聞いて目からウロコでした。経済学部に来て、進路先は営業が多いと聞いて不安に思っていました。なぜなら僕は口下手だし、人と話すのが苦手なのです。今日の社長さんの話では、若い時は僕と同じように人との会話が苦手だと話されました。しかし、営業で一番大切なことは信頼を得ること。それには誠意をもって相手と接することと話されました。これなら僕にもできると思いました。

来年4月からは、経済学部で待望の「備後経済コース」ができます。備後経済論は、備後経済研究や地域調査とともに中核をなす科目となります。ご期待ください。

経済学科 教授 平田 宏二



平成25年度 大学連携による新たな教育プログラム開発・実施事業



広島県では18歳及び22歳人口が減少しており、県ではこの対策として「グローバル人材育成」のテーマの下、県内大学が連携し魅力的な講義を開発してこの人口減少に歯止めをかけるための補助金事業を実施していますが、この度、福山大学が幹事校となり、福山平成大学、福山市立大学、尾道市立大学と連携し、「国際経営を理解する人材の育成と備後企業の取り組み」のテーマで作成・提出した実施計画書が補助金交付対象に選定されました。実施計画の具体化の際には、連携大学の他に推進委員として、福山市役所、福山商工会議所、備後地域地場産業振興センター、福山商工会からご支援をいただきました。

プログラムの目標は、国際経営の理論や実践的知識を養う講義と、海外進出企業の現地ビジネスの問題解決を学習し、その後の海外現地研修を通して、国際ビジネスで活躍できる人材を備後地域に供給させ

ていくことです。この目的に沿って、本プログラムの各回の講義は、経営学者が1限目に経営国際化を理論的に解説した後、2限目は地域企業の実務担当者による実際の取り組みのケーススタディを行う構成になっています。また、学生には企業研究を義務付けて、2限目に多くの時間を割いてある質疑応答で発言し、積極的に授業参加をするように指導しています。講義は10月より実施し、12月中旬で終了します。開講時間は土曜日2コマ連続(9時～12時)とし、講義場所は学校法人福山大学宮地茂記念館です。福山大学受講生の認定単位に関しては、15コマの講義と海外研修を各2単位とし、社会人には修了証を発行します。ただし、受講料は免除となっています。尾道市立大学キャンパスで受講する学生へは、テレビ会議システムを利用して講義を遠隔配信しています。このシステムは広く利用可能であり、連携大学の副学長や推進委員の皆様にも講義内容を配信して講義をご覧いただいています。

受講生に関して、大学生は代表校及び各連携大学で7月初旬から学内説明会を実施して募集しました。また、社会人は推進委員会と連携して募集を実施すると同時に、中国新聞に掲載していただいた記事の効果もあり38名の応募がありました。結果、総受講者数102名、さらに海外現地研修参加者も35名に上りました。海外研修は、平成26年2月中旬にタイで1週間実施しますが、受入先企業と協働し、十全の準備や実施体制をとり、実施後には参加者がレポートを作成・提出する予定です。

国際経済学科 教授 尾田 温俊

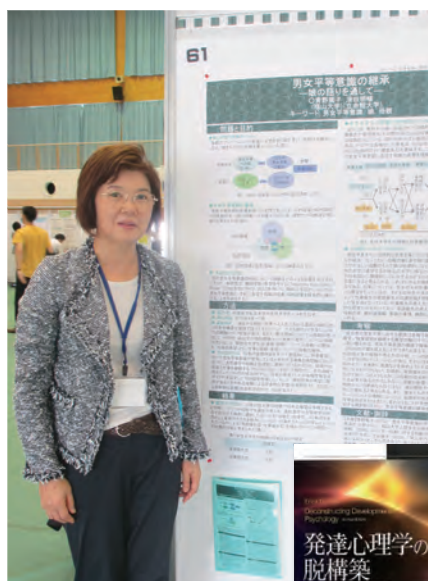
2013 BINGO オープンインターンシップ

今年で4年目を迎えたBINGO チャレンジインターンシップは、昨年から文部科学省が進めている「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の一環として活動するため、本年はBINGO オープンインターンシップと改名したうえで、規模の拡大と内容の充実に計りつつ運営しました。昨秋に設立した人材育成事業推進室、通称『自分未来創造室』が主にインターンシップを索引したこともあり、本年は質量ともに充実したインターンシップを実現することができました。また、昨年末から地域産業界に積極的に働きかけた結果、本年はインターンシップ受け入れ可能企業が54社(昨年23社)に倍増しました。例年通り、企業～学生間のミスマッチを防ぐため、受け入れ可能企業に一堂に集まってもらい、学内でインターンシップ参加希望学生に対する合同企業説明会(6月18日(火))を実施しました。その後、履歴書提出や面談などの事務手続きを経たうえで、夏休み期間中に延べ86人の学生が39社の企業・団体でインターンシップを体験してきました。延べ41人の学生が19社の企業・団体で研修した昨年に比べると、今年のインターンシップの規模は飛躍的に拡大しました。受け入れ企業の増加、学生の参加意欲の向上などインターンシップに対する関心が高まったこの機会に、内容的にも充実させようと考え、今年は幾つか新たな活動に取り組みました。インターンシップの以前と以後の活動を充実させることで、インターンシップで得られた貴重な体験を学生が自分のものに消化吸収できるように配慮して運営しました。事前の活動としては、専門の講師を招いて社会人としてのマナー等を講義してもらい、講習・討議を通じて参加学生たちのインターンシップに対するモチベーションを高める事前研修会(8月7日(水)～8日(木))を実施しました。事後の活動としては、学内及び学外向けに発表会(10月12日(土)・11月9日(土))を開催しました。これは、学内の後輩たちに、また学外の企業・団体及び他大学の人たちに等インターンシップで得られた自らの体験・成果を発表する催しですが、他の人たちに説明し理解してもらおうとする作業からやりっ放しのインターンシップでは得られない、実りある何かが身に付いたものと思います。以上の活動と並行して、評価システムを充実させました。インターンシップ以前・以後の自己診断、受け入れ企業からの評価、さらには各種アンケート結果を分析することで、色々な面から自分を、そして自分の成長を見直し・見詰めることができるはずで、これらを今後の自分の人生設計に活用してもらいたいと思います。



キャリア形成支援委員長 布施 守雄

『発達心理学の脱構築』(翻訳)を出版！



2012年11月にミネルヴァ書房から、エリカ・バーマン著 Deconstructing Developmental Psychology 2nd ed. の翻訳を出版しました(村本邦子・青野篤子監訳／五十嵐靖博・滑田明暢・青野篤子訳)。日本の心理学は英米心理学の輸入といっても過言ではありません。その英米心理学は、植民地時代の支配階級(白人や男性)に都合よくつくられたものです。人間の発達 development は経済の発展 development からの類推であり、発達とは、大きくなること、成長することと同義でした。そして、心理学は、それぞれの時代や社会の要請を受けて発展してきました。戦争になると兵士にふさわしい人を選別するための心理検査が開発され、戦争が終わると女性を家庭に戻すために心理学の母子関係論が利用されました。心理学と社会政策はきってもきれない関係にあるのです。日本の現状をみると、発達障害が注目され、それを見つけるためのテストや治療法の研究が盛んです。一方、大学生たちは就職するにあたり、社会人基礎力やコミュニケーション能力といった画一的な能力が期待されるようになっていきます。心理学はそれに大いに利用されています。このように、社会的に「構築」されてきた心理学を「脱構築」しようというのがこの本のねらいです。何のための心理学か、何のための研究かが問われています。蛇足ですが、私は今、男女平等意識の継承について研究しています。男女平等をめざした母親世代が娘世代に何をどのように伝えるか、伝えきれていないのか、男女平等指数が136か国中105位という日本の現状を考えるヒントを見つけないと思います。

心理学科 教授 青野 篤子

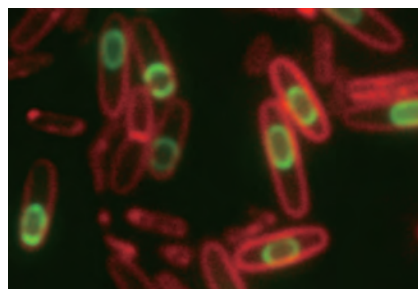
日本農芸化学会の農芸化学奨励賞を受賞！

今年の3月24日(日)から5日間にわたり、宮城県仙台市で開催された日本農芸化学会2013年度大会において、農芸化学奨励賞を受賞しました。本学会は、オリザリン(ビタミンB1)の発見で有名な鈴木梅太郎先生が初代会長となって1924年に設立され、現在では会員数が1万名以上、北海道・東北・関東・中部・関西・中四国・西日本の7支部がある、大変に歴史ある大きな学会です。農芸化学とは、動物・植物・微生物の生命現象、生物が生産する物質、食品と健康など、主に化学的なアプローチで基礎から応用まで幅広く研究する学問分野であり、本学会会員もバイオサイエンス・バイオテクノロジーを中心とする多彩な領域の研究者・学生・団体が構成されています。

農芸化学奨励賞は、農芸化学の進歩に寄与し、かつ将来の発展が期待できる研究をなした比較的若手の研究者を対象にしたものであり、今回「植物の生育促進への利用に資する、枯草菌の転写応答機構の研究」というテーマでこの賞を賜りました。このテーマは、私が2004年に福山大学に赴任して以来、生物工学科の藤田泰太郎教授の指導を仰ぎながら続けてきた研究の成果をまとめたものであり、その中で土壌細菌である枯草菌(写真は蛍光染色した枯草菌の顕微鏡画像)が植物の根から滲み出るフラボノイドを感知して自身の遺伝子発現を調節するメカニズムのいくつかを明らかにしました。これまで、グラム陰性菌の根粒菌が宿主であるマメ科植物から出るフラボノイドに応答して根粒形成のための遺伝子を誘導することは知られていましたが、グラム陽性菌の枯草菌でフラボノイドに応答するメカニズムが複数あるというのは新しい発見でした。誘導される遺伝子には鉄イオン取り込みなどの植物の生育に関係するものも含まれていたため、この知見をもとに枯草菌を植物の生育促進に利用できないかと考えています。また、枯草菌での銅イオンの取り込みと排出に関わる遺伝子の発現を調節するメカニズムも明らかにしました。将来的に枯草菌の銅イオン取り込み能を高めることで、銅などの重金属で汚染された土壌の改良に応用することが期待されます。

日本農芸化学会の賞を受賞された福山大学の教員は過去に6名おられ、日本農芸化学会賞を1990年に福井作蔵先生が、1993年に浅田浩二先生(京都大学在籍時)が受賞され、日本農芸化学会功績賞を1992年に廣海啓太郎先生が、2007年に藤田泰太郎先生が受賞されています。また、2002年に吉田健一先生が農芸化学奨励賞を、2007年に田中保先生が農芸化学研究企画賞を受賞されています。受賞された先生方に少しでも追いつけるように今後も研究に励んでいきたいと思っています。最後になりましたが、ご指導賜りました藤田泰太郎先生、ご支援いただいた学内外の諸先生、研究と一緒に取り組んでくれた当時の学生・スタッフの皆さんに心より感謝申し上げます。

生物工学科 准教授 広岡 和丈



「備後経済コース」



つ学生を育て、同時に「福山大学に行けば、備後のことはすべてわかる」という地域経済の研究拠点となることを目指して、備後経済コースが平成26年度より始まります。

経済学や経営学から見て、この備後地域はさきめて興味深い特徴を持っています。この地域の産業集積は繊維から鉄鋼電子部品までに及び、日本でも有数の産業集積地となっていることです。一方、福山大学は備後地域に根ざした大学です。経済学部 of 学生の多くもこの地域の出身者からなっています。したがって、この特徴的な備後地域を研究するコースを設置することは、経済学部の、そして、福山大学の使命でもあります。

この考えに基づいて、平成26年度より経済学部では税務会計学科に備後経済コースを設置します。このコースは、次の特徴的な科目を核にします。それらは、①備後経済論(地元企業の経営者が語る備後経済)、②地域調査(実地調査によって学生が調べる備後経済)、③備後経済研究(経営学の専門家が語る備後経済)です。加えて、備後地域の企業は東アジアに事業展開をしています。これに係わる経営上の問題に関する講義も提供します。これらの科目と卒論の作成を通じて、地域経済への深い理解を持つ

経済学科 教授 入谷 純

「スマートシステム学科」



電子・ロボット工学科は、平成26年度から日本初の「スマートシステム学科」(学科名称変更届出済)に生まれ変わります。この学科は、防災、エコロジー、医療などの分野で私たちの安心、安全な暮らしをサポートする自律した「賢い」装置、スマートシステムを支える知識と技能、そして倫理観を学びます。そのコアは、組込み技術と呼ばれる進化した電子・電気工学技術です。さらに、様々な専門分野との調和が求められることからマネジメントも学びます。その学科が解放感あふれる工学部新棟と共に誕生します。スマートシステム学科では、しっかりとした目標を見据えたハイエンドな学びができます。

電子・ロボット工学科 教授 香川 直己

「建築学科」

建築・建設学科は、平成26年度から「建築学科」に名称変更し、学科内コースとして建築コースと生活環境デザインコースの2コース制となります。また、建築コースはデザイン系とエンジニアリング系に分かれ、夫々の専門分野を学習し、美術館、図書館、庁舎、学校などの公共施設から集合住宅、個人住宅、店舗、さらにインテリアまでのあらゆる建物や空間をつくるための知識と技術を学習するコースで、卒業後は建築デザイナー、インテリアデザイナー、建築エンジニアなどを目指します。生活環境デザインコースは住宅、インテリア、家具など子供から高齢者までの快適で安全な住空間、商業空間、医療福祉空間をつくるための知識と技術を学習するコースで、卒業後は居住デザイナー、インテリアデザイナー、福祉住環境の専門家などを目指します。ともに一級建築士、二級建築士の受験資格が得られ、その他、インテリア設計士やインテリアデザイナーなどの資格取得が可能です。さらに、学科恒例のイベントとして、毎年、卒業設計展を地域の商店街や図書館にて開催しています。学生生活4年間の集大成として取り組んだ設計作品を、地域の人達に公開して展示しています。

建築・建設学科 教授 大島 秀明



アメリカ留学体験

経済学部 国際経済学科 3年 木之下 聖
(広島県立福山明王台高等学校出身)



私は、カリフォルニア大学リバーサイド校に1か月間、留学をしました。私が留学をしようと思ったきっかけは、1年生の時に先輩から「留学は自分を変えられるいい機会になるよ」と、勧められたからです。実際に行ってみて、本当に先輩の言っていたことがわかりました。最初は不安も多く、慣れない文化や言葉の中で戸惑いました。英語が得意ではなかった私は、ホストファミリーとの会話にとっても苦労しました。しかし、ホストファミリーは、私が言いたいことを理解しようとしてくれましたし、「間違えていてもいいから、もっとあなたと話がしたい」と言ってくれました。こういう環境だったから、私ももっと英語の勉強がしたいと思うようになったと思います。また、留学中、いろいろな場所へ旅行をしました。中でも、ラスベガスにあるベラージオというホテルの噴水は、以前、映画で見て1度は見てみたいと思っていたので、とても感動しました。1か月という短い間ではありましたが、多くのことが経験でき、とても充実した時間になりました。

オックスフォード体験記

薬学部 薬学科 3年 志摩 亜季保
(尚志館高等学校出身)

私は、今年の夏にオックスフォード大学で開催された2週間の英語研修に参加しました。ヨーロッパに行くのは今回が初めてで、福山大学から参加した学生のほとんどが初海外ということで出発するまでの間は不安もありましたが、オックスフォードに着いたその日から帰国までの間、授業やイベント、観光など毎日様々な予定が入っており、不安を抱く暇もないほど充実した毎日を過ごしました。

オックスフォードの夏は、日本のようなジメッとした蒸し暑さは全くなく、秋のような涼しい気候で湿気も少なく朝晩は少し肌寒いくらいでした。また、オックスフォード滞在中は大学内にある寮に寝泊まりしました。平日は基本的に午後まで授業がありましたが、授業後は夕食の時間まで自由時間だったので、買い物に出かけたり博物館に行ったり各々好きなことをして過ごしました。夜には現地スタッフの方が企画してくださったイベントなどもあり、たいへん盛り上がり夜遅くまで起きていたこともありました。週末にはみんなでお弁当を持ってロンドン観光やシェイクスピア緑の地を巡る遠足、ルーブル美術館などのパリ観光もありました。

今回の英語研修の参加者は、福山大学の学生だけではなく、他大学の日本人学生や様々な国の学生たちも参加していました。そのため、同世代の様々な国と文化を持った人たちと交流ができたことは、他の外国の学生たちに比べて、自分の英語力の無さに不甲斐なさを感じつつもいい勉強になりました。



夢のようで、でも確かにあった3週間

人間文化学部 人間文化学科 4年 小野 拓也
(広島県立大門高等学校出身)



私には、大学在学中に留学したいという夢がありました。留学して感じた実際の中国は、NEWSや新聞で取り上げられるような環境とは少し違うような気がしました。空気はそんなに汚くありませんし、日本人だからと差別されたりすることはありません。それよりもむしろ、私は交通マナーやお店でのサービスの質に問題を感じました。とはいっても、もちろん悪いことばかりではなく、陽気な人柄や自由な文化にはとても良い刺激を受けました。

今回の留学での収穫は2つあります。1つ目は、中国語をしっかりと勉強でき、中国文化を体験できたことです。毎日新しい単語を覚え、実際にそれを街で使いました。2つ目は、素敵な他大学の仲間と出会えたことです。困った時は助け合い、一緒に生活していく中でかけがえのない友達になりました。また、現地で偶然知り合った日本人学生とも仲良くなり、同年代なのに考え方や経験がこうも違うのかと驚き、学びました。

今、日本に帰ってきてとても不思議な感覚です。確かに3週間留学していたのですが、なぜか思い出しても現実味がなく、まるで夢でも見ていたかのような感覚です。でも、確かにあった3週間。その3週間は間違いなく私の人生にとってかけがえのない財産です。後輩の皆さん、留学は夢と希望に溢れています！少しでも興味があるなら勇気の一步を踏み出してください！

学友会 短 信

【サッカー部】

●4月21日～11月10日 2013年度中国大学サッカーリーグ3位

●5月17日～19日 2013年度(第37回)中国大学サッカー選手権兼総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント大会中国地域予選大会出場

●8月24日 2013年度全広島サッカー選手権大会決勝大会準優勝

【硬式野球部】

●7月5日～7日 第27回広島国際親善野球大会 選抜選手 山本翔太郎(経済3年), 原田賢吾(経済3年), 木村真登(経済3年), 松原大雅(経済3年), 桑本拓磨(経済2年)

●8月31日～10月20日 2013年度中国六大学秋季リーグ戦3位(勝点3) ベストナイン 木村真登(経済3年), 南将太(経済4年)

【陸上競技部】

●7月6日～7日 秩父宮賜杯第66回西日本学生陸上競技対校選手権大会出場

●9月6日 天皇賜杯第82回日本学生陸上競技対校選手権大会出場 廣藤耕一(経済4年) 10000mw決勝31位

●10月18日 第36回中国四国学生陸上競技選手権大会出場 廣藤耕一(経済4年) 10000mw1位

【剣道部】

●8月25日 第60回中四国学生剣道優勝大会出場

●10月13日 第33回中四国学生剣道新人戦出場

●11月5日 第6回天野杯剣道選手権大会出場 女子個人戦優勝 野口真奈美(人間文化1年), 3位 今久保朱美(薬2年)

【卓球部】

●8月27日～30日 第64回中国学生卓球選手権秋季大会出場

●10月4日～5日 中国学生卓球連盟会長杯争奪卓球大会出場

【柔道部】

●6月30日 第19回広島県柔道体重別選手権大会(兼第68回国民体育大会広島県代表選手選考試合)出場

●8月5日 第18回天野杯女子柔道大会出場

●8月30～9月1日 平成25年度中国四国学生柔道体重別大会出場

【弓道部】

●9月12日～13日 第39回広島県学生弓道男女リーグ戦出場

●10月25日～27日 第59回中四国学生弓道選手権大会出場

【バスケットボール部】

●9月7日～11月30日 2013年度広島県学生バスケットボール選手権大会秋季交流リーグ戦出場

【ボート部】

●7月21日 第68回国民体育大会中国ブロック大会出場

【ラグビー部】

●6月23日 天野杯7人制ラグビーフットボール大会出場

●6月30日～7月7日 中国地区大学ラグビーフットボール交流試合大会出場

【水泳部】

●7月6日～7日 第44回中国四国学生選手権水泳競技大会出場 女子背泳ぎ100m 2位, 200m 2位 小笠原菜子(薬2年)

●9月15日 第89回日本学生選手権水泳競技大会出場 女子背泳ぎ100m, 200m 小笠原菜子(薬2年)

【実践空手部】

●8月11日 東日本大震災復興支援シンデレラカップ The 3rd 全日本女子空手道選手権大会出場

【ゴルフ部】

●9月19日 第2回中四国学生ゴルフREGUS CUP 出場

●10月3日～4日 平成25年度中四国学生ゴルフ連盟秋季1部対抗戦出場

【硬式庭球部】

●7月13日～21日 広島県学生庭球選手権大会出場

●9月9日～11日 平成25年度全日本大学対抗テニス王座決定試合中国四国地区大会出場

【ソフトテニス部】

●7月13日 平成25年度広島県知事杯学生ソフトテニス大会出場

●8月27日～28日 第63回中国学生ソフトテニス選手権大会出場

【男子バレーボール部】

●10月19日～20日 第78回中国大学バレーボールリーグ戦秋季大会出場

【YRC(ボランティア)部】

●4月27日 第70回尾道みなの祭参加

●7月11日 第26回国際アカデミー in 福山(主催(公益社団)青年会議所 国際アカデミー委員会)参加

●7月13日 わいわいフェスタまつなが(社福)芙蓉の家イベント参加

●9月15日 広島県東部地区親善スポーツ大会(障害者スポーツ活動補助)参加

●9月15日 第20回ゲタリンピック2013イベント参加

●9月21日 River Side Groove2013イベント参加

●10月12日 第4回ディア・レスト福山秋祭りイベント参加

●定期清掃活動クリーンウォーキング JR 松永駅・JR 福山駅・芦田川(月3回)

【海洋生物研究会】

●6月9日 第4回フィッシング大会(学友会執行部と共催)

【管弦楽団】

●6月2日 びんごアマチュア音楽フェス音&音参加

●7月13日 わいわいフェスタまつなが(社福)芙蓉の家イベント参加

【書道同好会】

●第9回ふくやま書道美術館所蔵品臨書展

【漫画研究会】

●9月10日 広島県立歴史博物館「マンガのちから展」協力

【モノづくり倶楽部】

●10月26日 全日本製造業コマ大戦2013中国場所参加

【三蔵太鼓を打つ会】

●10月26日 じばさんフェア2013演奏出演

【三蔵祭運営委員会】

●9月15日 第20回ゲタリンピック2013イベント参加(三蔵祭PR活動)

●10月18日～20日 第39回三蔵祭「新進気鋭」

【学友会執行部】

●7月4日 七夕まつり学内飾り付け

●7月8日 学内・夏季献血活動

●8月25日 街頭献血協力(フジグラン神辺)

●9月15日 第20回ゲタリンピック2013イベント参加

●10月18日 秋季学長杯争奪競技大会(三蔵祭) ソフトボールの部, バスケットボール3on3の部

●11月29日 学内・秋季献血活動

●学友会サークル新規承認について
放声部(同好会)(平成25年7月16日付承認, 顧問:メディア情報文化学科 教授 三宅正太郎), 雪合戦同好会(平成25年7月16日付承認, 顧問:生物工学科 教授 原口博行)

(学務部 学生課)

西原 晃先生のご逝去を悼んで

平成25年8月9日死去

西原先生は、平成25年8月9日(金)早朝、60歳という若さで生涯を閉じられました。発病からあまりにも早いご逝去で、やり残されたことが随分あったのではないかと思います、残念至極です。

先生は鳥取県出身で、京都大学大学院工学研究科博士課程を単位取得退学後、「誘導異方性と主応力回転を考慮した自然堆積粘土地盤の短期安定解析法」により、工学博士の学位を授与されています。京都大学工学部で教鞭をとられたあと、昭和59年4月に福山大学土木工学科に着任され、平成4年にはニュージーランドのオークランド大学に1年間留学して、バンダー教授のもとで「土中のせん断波の測定に関する研究」に取り組まれました。福山大学では、専門の土質力学及び地盤工学に関する教育と研究に努め、自然災害から人の生命や財産を守り、安全で快適な生活環境を創造することについて、学生諸君に熱く語っておられた姿が印象に残っております。また、昭和61年には土質学会論文賞を受賞されています。さらに、地域社会活動として鳥取県公共事業評価委員、福山市防災委員、福山市入札監視委員会委員を務められました。福山大学の公務としては、施設部副部長及び就職委員長並びにキャリア形成支援センター長等を就任され、身を粉にして大学の運営に貢献された姿が思いおこされます。

先生はジャズを聴くことを趣味として、動物を愛する優しいご主人であったことを奥様から伺っています。ジャズを聴きながら、どうぞ安らかに眠りください。ここに改めて西原先生を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

建築・建設学科 教授 田辺 和康

楠瀬正道先生のご逝去を悼んで

平成25年9月28日死去

楠瀬先生は、平成25年9月28日(土)に肺ガンのため、88歳でご逝去されました。先生は、大阪大学理学部化学科をご卒業され、大阪市立大学医学部教授を経て、平成2年4月に福山大学工学部食品工学科教授として赴任されました。また、本学を退職後も平成11年3月まで特任教授として教壇に立たれました。この間、食品工学科の学生並びに大学院工学研究科の大学院生の教育と研究活動をご指導いただき、応用生物科学科や生命栄養科学科へとつながる学科の礎を築かれました。特に、研究に対してはいつも熱意を持って当たられ、私も指導を受ける中で何度も厳しいお言葉をいただきました。卒業研究の指導でも熱が入って学生がへこんでしまうようなこともありましたが、先生のお人柄を知る学生は誰も恨み言を言わず、今でも多くの卒業生に慕われています。退職後は、大阪で地域コミュニティのボランティア活動に参加するなど、情熱を欠かすことなく活動され、平成15年には在職中の功績により瑞宝中綬章を受章されました。最近、体調を崩されることが増えたようですが、立派な医師に成長した大阪市立大学医学部時代の教え子と共に積極的に病氣と闘っておられました。一方で、卒業生の行く末を常に気にかけておられ、指導をいただいた私達をいつも心配してくださっていました。最後にお会いした今年の年初には、まだまだ元気におられ、こんなに早くお別れをすることになるとは思いもよりませんでした。

先生は、生前の機会あるごとに、良き師、友人、教え子の皆様に恵まれ、思う道一筋にその生涯を歩ませていただいたことに感謝の意を表されていました。楠瀬先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

生命栄養科学科 教授 菊田 安至

横山和典先生のご逝去を悼んで

平成25年10月7日死去

横山先生は、広島文理科大学数学科をご卒業され、広島大学政経学部教授を経て、平成3年に福山大学経済学部教授に赴任されました。福山大学では、経済学科長(平成7年4月～平成9年2月)、大学院経済学研究科長(平成9年2月～平成10年3月)、附属図書館長(平成10年4月～平成12年3月)を歴任されました。さらに、平成13年3月に福山大学を定年退職された後も特任教授(平成13年4月～平成14年3月)として、ご活躍されました。また、平成13年4月には、名誉教授の称号も授与されました。

私が、先生と最初にお会いしたのは広島大学の大学院の講義でした。手元には、当時使用した先生のテキスト『経済数学』(昭和57年発行)があります。その前書きから引用させていただくと、「数学に対する誤った認識と大学教育で現実とのずれが数学アレルギーを引き起こし、数式を使用する講義には完全に拒絶反応を示す学生が中には現れてくる」と述べられているように、先生からは最近の学生の数学力が低下しているので講義で数学を使うことが不自由であるということをお聞きする機会が多かったように思います。また、講義の思い出としては、計量経済学の黎明期には経済学者間で「計測なき理論」、あるいは「理論なき計測」と相互に揶揄し合う状況下にあったこと、最小二乗法による統計推定量が「最良線形不偏推定量」であることを熱心に、とても愉しそうなご様子で講義されていたことが懐かしく思い出されます。福山大学におかれましても、様々な役職に就かれて経済学部の教育のためにご尽力されてまいりましたが、ご苦労は並大抵ではなかったと拝察いたします。横山先生のご逝去に対し、哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

国際経済学科 教授 尾田 温俊

後援会情報 福山大学後援会役員会(理事会)開催される!

三蔵祭(大学祭)期間中の10月19日(土)の11時から、福山大学後援会役員会(理事会)が19号館1921教室で開催されました。山田敏弘後援会会長の挨拶に続いて松田文子学長の挨拶があり、その後、会長・副会長・監事・理事の自己紹介を行い、



8月下旬から9月中旬に全国14会場で開催された後援会地区別総会の報告がありました。なお、平成25年度理事から4名の副会長と1名の監事が新たに選出されました。

(総務部 庶務課)

入試広報室から

◆入試説明会

高等学校進路指導担当者を対象に、福山大学・福山平成大学の入試説明会を6月10日(月)～14日(金)及び7月4日(木)の計6日間、近畿・中国・四国・沖縄の10会場で開催しました。参加者は、11府県100校106名でした。

◆大学参観を兼ねた入試説明会

福山大学・福山平成大学の大学参観を兼ねた入試説明会を9月20日(金)に開催しました。参加教員の事前希望で、工学部新棟や因島キャンパス等、各大学の施設・設備を見学後、学校法人福山大学宮地茂記念館で両大学の入試説明会が行われました。参加者は、11府県45校50名でした。

◆進学相談会(業者主催)

業者主催の進学相談会において、本年度は広島など21都市35会場で高校生・保護者・教員、総計576名の進学相談に応じました。

◆見学会・体験入学会

毎年恒例の見学会を7月13日(土)、9月7日(土)、体験入学会を7月21日(日)、8月25日(日)に開催しました。見学会の参加者は、7月13日(土)は高校生151名、保護者85名、計236名、9月7日(土)は高校生109名、保護者59名、計168名でした。体験入学会の参加者は、7月21日(日)は高校生316名、保護者136名、計452名、8月25日(日)は高校生232名、保護者165名、計397名でした。また、福山平成大学においても、6月29日(土)、9月7日(土)に見学会、7月27日(土)、8月24日(土)に体験入学会を開催しました。見学会の参加者は、6月29日(土)は高校生58名、保護者17名、計75名、9月7日(土)は高校生85名、保護者32名、計117名でした。体験入学会の参加者は、7月27日(土)は高校生195名、保護者56名、計251名、8月24日(土)は高校生174名、保護者61名、計235名でした。

◆高校PTA・教員・生徒の本学訪問

5月中旬からの福山大学及び福山平成大学への訪問は、18校873名です。(11月末現在)

平成26年度前期入試A日程〔特別奨学生A選抜含む〕		
試験のある学部	福山大学	福山平成大学
	経済学部・人間文化学部・工学部 生命工学部・薬学部	経営学部・福祉健康学部・看護学部
出 願 期 間	平成26年1月6日(月)～1月25日(土)消印有効	
試 験 日	平成26年1月31日(金)～2月3日(月)※試験日自由選択制	
合 格 発 表 日	平成26年2月8日(土)	
試 験 地	1/31～2/3 本学・福山(宮地茂記念館)・岡山・広島・山口・福岡	
	1/31 鳥取・浜田・宮崎	2/1 米子・大分
	2/2 静岡・神戸・熊本	2/3 名古屋・京都・佐賀
	1/31・2/1 東京・大阪・松山・高知・鹿児島	2/2・2/3 松江・高松・今治・小倉

◇入学金減免制度について◇

福山大学及び福山平成大学の同窓生の子弟及び在学生の兄弟に対して、就学時の経済的支援のため、入学金を減免する制度を実施しています。同窓生の子弟及び在学生の兄弟とは、入学者の親、兄弟、姉妹のいずれかが福山大学及び福山平成大学の卒業生又は在学生(留学生は除きます。)です。詳細については、入試広報室までお問い合わせください。

編集後記

「学報」は、年4回発行している大学の広報誌です。入学式や卒業式などの公式行事を含め、毎回「皆さんに読んでいただくためにはどうすればよいだろう?」と編集委員が悩みながら作成しています。学報に関しては、これまで教員、学生、保護者の方々から「真面目すぎる」というご意見が数多くありました。そこで前回から写真を増やし、文章の段組なども工夫してみました。「おっ、変わったな!」という印象を持っていただけましたか?内容もますます充実していくよう編集委員一同奮闘していますので、是非ご一読ください。

発行 福山大学
編集 福山大学広報委員会
〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵
TEL(084)936-2111 FAX(084)936-2213

<http://www.fukuyama-u.ac.jp>